

一 告 告

KIT  
キャンパス  
レポート  
文・杉村裕之



大矢良斗 (おあや りょうと)  
金沢工業大学大学院工学研究科  
電気電子学専攻  
博士前期課程二年  
愛知県 名城大学附属高等学校出身

# 国境も文化の壁も軽々と 冒険心燃ゆ逞しき若武者。

内向き、縮み思考、プライベート無二の若者が増えている。かつて某栄養ドリンクのCM「二十四時間戦えますか」が流行し、事件記者として夜討ち朝駆けに明け暮れた筆者には、時代錯誤と笑われようが違和感しかない。そんな胸のつかえを、大矢さんは一瞬にして蹴散らしてくれた。

「日本は豊か過ぎて退屈です。」

日々の暮らしも困難な海外の国で課題解決のお手伝いをしたい。たぎる思いをぶつける先は、今春就職する千代田化工建設だ。同社は石油、ガスなどのエネルギーをはじめ、幅広い分野でプラントの設計、調達、建設を中心とするプロジェクトを世界各地で手がける。「せっかくなら観光で行けない危険レベルの高い国がいい」。冒険

心の塊のような若武者は、私が記者時代、訪れた中東シリアの話を、目を爛々とさせて聞いた。

海外にも友人が多い。しかも多国籍だ。多くは、学部四年次の夏から半年間、語学研修で留学したレスター大学(英)で知り合った。日本文化を発信したいと、着物と袴を新調して渡り、通学にも使った。留学仲間の日本人とカツ丼や味噌汁を作って振る舞い、喜ばれたこともある。にぎわいの中心は、いつも大矢さんだった。

本来ならこの時期、同級生は卒業論文の実験やデータ整理、資料づくりで忙しい。彼は研究室に配属された三年次の秋、学科長や指導を受ける泉井良夫教授に留学希望を伝え、前倒して卒業論文に取り組み了承をもらった。テーマは再生可能エネルギーの効率的な運用に不可欠な蓄電池の制御で、審査会当日は留学先からオンラインで参加し、質疑応答もこなした。彼

の熱量にふれると、誰もが応援団になってしまふ。

「活動場所が研究室を超えて世界に及び、通常の学生とはかなり良い意味で変わっています。彼みたいな学生がいると、日本の将来も明るいのではないかと嬉しくなります」。近くで見守ってきた泉井先生の声も弾む。

昨年四月、中古オートバイを買い、日本一周を始めた。在学中、世話になった先生や先輩、知人を訪ね、感謝の言葉を伝える旅である。驚くのは、公園や防波堤などで基本、野宿し、野草も摘んで調理する逞しさだ。「何事も自分で決め、自分で責任を取れるようになりました」。KITで鍛え身に帯びた自律のよろいは、どんな国、どんな境涯にあっても生き抜いていける最強のパスポートである。

## 金沢工業大学

石川県野々市市扇が丘七  
電話番号(076)248-1100